

令和4年度



7月

園だより



文京区立根津幼稚園

「不思議に思う」「試す」楽しさ

副園長 野本 和美

天気のよい日が続き、子どもたちは、金魚プールやパタパタプールで水遊びを楽しんでいます。「顔をつけられるよ」「ワニさん歩き！」とできるようになったこと、頑張っていることを見せてくれます。自分なりにやってみようとする姿がたくさんあり、とても嬉しい毎日です。

この時期ならではの遊びです。4歳児が色水を始めました。水に「魔法の紙」を入れるとあら不思議、とってもきれいな色に変身。色が変わる様子を見て「うわぁ不思議だね」「きれい」と、色の出ること驚いて繰り返し色を出すことを楽しみました。ある日「さっき作ったのより濃い色になった」「これは薄いソーダ」など、入れる紙の数を変えたり水の量を変えたり、色の濃淡を意識しながら色を作り始めました。違いを比べたり、色に合わせた名前を付けてジュース屋ごっこをしたり、教師もお客になって「わぁ、きれいな色のジュース、味が違うね」と楽しみました。

5歳児は、水に浮かぶ船を作っています。最初、牛乳パックにストローの旗を付けて浮かべるだけでしたが「本当に動くといいのに」とゴムの動力を使って動く船作りとなりました。ところがA児の船のプロペラが回りません。A児はじっと船を見ると「割り箸がぶつかっているからだ」と気づき、早速直しました。でもまだ動きません。またじっと見てしばらく考え「船が重いのかも…プロペラを2つ付けてみよう」とプロペラを2つ付け、とうとう船が動きました。一緒にいた教師は「大成功。いろいろ試していたからね」と頑張りを受け止め、ともに喜びました。

幼児が様々な出来事に出会い「不思議だな」と思うと「〇〇したらどうなるか」「もっとこうしてみよう」と様々な考えが出てきます。教師はその姿を見て、一緒に不思議がったり試す姿を見守ったり、時にはヒントを出したりしながら援助しています。その時に、大人が答えを早く出し過ぎずに、子どもの気づきを待つ、引き出すことを大切にしています。これからもたくさんの出会う姿を大切に、幼児のペースに合わせ「不思議に思う」「試す」姿を支えていきます。

